

奄美市でテニスクリニック

坂井利郎さんが指南 小中学生らトップ技術学ぶ



自分のラケットを握り指導にあたる坂井利郎さん

奄美大島でテニス合宿中の「日本工学院八王子専門学校」（柳田海人顧問、学生26人）は4日、奄美市の名瀬運動公園庭球場で「テニスクリニック」を開いた。日本テニス協会副会長で同カレッジ総監督の坂井利郎さん（75）が指南。奄美大島、徳之島の小学生から一般までの30人が受講し、フォアやボレー、レシーブといったトップブローの技術を学んだ。

坂井さんは選手時代、インブロンなどで活躍した日本テニス界の屈指のプレイヤー。引退後は錦織圭選手代、デビスカップやウイマール杯で活躍した日本テニス界の引退後は錦織圭選手

をはじめとする後進の育成にあたり、2021年の春の叙勲では旭日双光章を受章している。クリニックは今年が4回目。同カレッジからはコーチやトレーナーも参加し指導にあたった。クリニックでは、坂井さんが全受講生を前にフォアやバック、スマッシュやラリーの練習方法について手本を交えて実践。「ギリギリまでボールを見極めて」「試合のつもりで一球一球大事に」となどと激を飛ばした。全体指導の後は、班ごとに分かれて個別指導も。約3時間、学生らとも交流を深めながら汗を流した。

徳之島ジュニアテニスクラブの福美睦コーチ（32）、新田夢楓コーチ（28）は「数々の日本代表を見てきたプレイヤー。（子どもたちには）技術だけでなく礼儀作法もしっかり学んでほしい」。同クラブで亀津中2年の佐多洵太さんは直接指導を受け「自分が出来ていないことを瞬時に見抜いて教えてくれた。参考にして頑張りたい」と笑顔だった。

坂井さんは「奄美のスポーツは大きな可能性を秘めている。じつと我慢しながら一瞬のチャンスをつかむ。ハブスピリットで一歩一歩前へ進んでほしい」とアドバイス。クリニック後は学生とのエキシビジョンマッチなども楽しんだ。